

3 環境情報の収集・発信

センターでは、県民の環境意識の向上や環境保全活動を支援するため、環境学習情報のほか、試験研究情報、国際貢献情報など様々な情報をホームページで提供している。また、平成26年7月からフェイスブック、令和2年5月からYouTube公式チャンネル「CESSチャンネル」、令和2年11月からInstagramを活用して、イベントや生態園の四季、センターの活動などの情報を発信している。

これに加え、新聞による環境情報の発信や、センターの活動を広く知ってもらうためにニュースレターを発行している。

HPアドレス <http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/index.html> [令和7年度アクセス件数 235,856件]

フェイスブックページアドレス <https://www.facebook.com/saitama.kankyokagaku>

YouTube公式チャンネルアドレス <https://www.youtube.com/channel/UCloUEno4mbrzZlOT2SzEV7A>

Instagramページアドレス <https://www.instagram.com/cess.saitamaken/>

3.1 ホームページのコンテンツ

(1) グローバルナビゲーション

トップページ上段に、以下の4つの大分類を設け、サイト構成をわかりやすく整理。

ア センターについて 総長あいさつ、組織図、沿革、全景（航空写真）、パンフレットなどを掲載。

イ 施設紹介 施設紹介、ご利用案内、展示館、生態園、環境情報プラザ、研修室などを掲載。

ウ 試験研究の取組 研究所中期取組方針、研究課題、研究評価の取組、国際貢献、研究員紹介などを掲載。

エ 環境学習・情報 イベントのお知らせ、彩の国環境大学、身近な環境観察局、出前講座などを掲載。

(2) お知らせ

特に注目してほしい情報を掲載。

(3) 新着情報

最新の更新情報を掲載。

(4) 環境学習・イベント情報

最新のイベント情報、校外学習など環境学習に関する情報を掲載。

(5) 研究所トピックス

ニュースレター、センター講演会など研究所に関する情報を掲載。

(6) お役立ちPickUp

イベント情報、「ココが知りたい！埼玉の環境」などの情報を掲載。

(7) リンク

公式SNS情報、埼玉県気候変動適応センター、刊行物、地図で見る埼玉の環境 Atlas Eco Saitamaなど。

3.2 ニュースレターの発行

センターが行っている試験研究の内容や様々な講座、イベントなどの情報を県民の方々に広く情報提供するためのニュースレター（A4版・5～6ページ）を令和7年度に4回発行した。なお、ニュースレターは、センターのホームページから閲覧及びダウンロードができる。

(1) 第67号（令和7年4月発行）

・研究・事業紹介「埼玉県における硝酸性窒素等による地下水汚染と汚染原因の解析」

「埼玉県環境科学国際センター講演会を開催しました」

・ココが知りたい埼玉の環境（58）「大気中に浮かぶ粒子にはどんなものがありますか？」

・環境学習・イベント情報

(2) 第68号（令和7年7月発行）

・研究・事業紹介「暑さ指数の情報発信を活用した熱中症対策について」

・ココが知りたい埼玉の環境（59）「侵略的外来生物とはどのような生き物ですか？」

・環境学習・イベント情報

(3) 第69号（令和7年10月発行）

- ・研究・事業紹介「自動車からアンモニアが排出されるって本当？ ～道路周辺でアンモニア濃度を測定しました～」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(60)「ごみと廃棄物は違うの？」
- ・環境学習・イベント情報

(4) 第70号(令和8年1月発行)

- ・研究・事業紹介「ヤギさんは大丈夫か！～紙に含まれていたダイオキシン類～」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(61)「断水時の水の備え、飲料水7日分で大丈夫でしょうか？」
- ・センター講演会のお知らせ「環境科学国際センターの「センター講演会」に是非御参加ください」
- ・環境学習・イベント情報

3.3 センター講演会

当センターでは、広く県民に活動内容及び研究成果を紹介することにより、県民のセンターに対する理解と環境問題への関心を深めることを目的としている。令和8年2月2日に「地球環境と人の暮らしをつなぐ知の探究」をテーマとした令和7年度環境科学国際センター講演会を埼玉会館小ホールとオンラインによるハイブリット方式で開催した。

今回は、東京大学大気海洋研究所国際・地域連携研究センターの原田尚美氏による特別講演、続いてセンター研究員による研究発表を行った。また、各研究員が研究成果等をポスター展示し、説明を行った。センター講演会の参加者は全体で264名であった。

(1) 特別講演

南極の魅力～海水が溶かす南極大陸氷床と日本への影響……………東京大学 教授 原田尚美

第66次南極観測隊では女性初の隊長を務められた。南極という厳しい環境条件の中で観測隊の活動の様子や、南極の氷床の融解がもたらす海面水位上昇予測など、地球温暖化が与える影響について講演した。

日本では味わうことができない南極の自然の魅力や南極地域観測の意義等を映像や写真を用い紹介された。

(2) センターの研究成果発表

化学物質の環境動態～ダイオキシンはどこからやってくる～？……………化学物質・環境放射能担当 落合祐介

ダイオキシン類は毒性が強く、化学的に安定であることから環境中に長期間残留することが懸念されている環境汚染物質である。平成10年にダイオキシン類対策特別措置法が施行されたことで環境排出量は激減したが、河川等の水質では環境基準の超過が現在でも続いており、動向を注視していく必要がある。そこで、ダイオキシン類調査を行い、過去のダイオキシン類汚染が再浮遊していることを解明し、発表した。

暑さ指数の活用～熱中症を予防するために～……………温暖化対策担当 大和広明

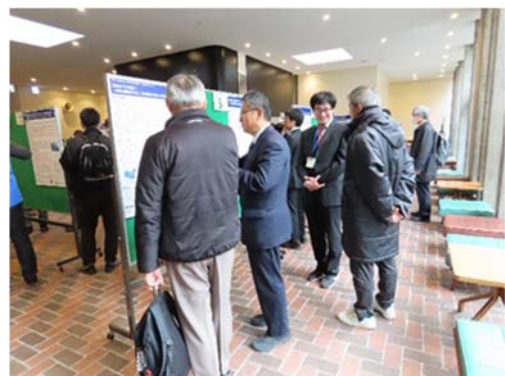
気温だけでなく、湿度や放射の影響も加味した「暑さ指数」は、熱中症の危険性を適切に表す指数である。熱中症を予防するためには、今いる地点と時点の暑さ指数を知ることが重要である。そこで、環境省より多地点・多頻度で暑さ指数を提供できる暑さ指数計を独自に開発し、共同研究企業と製品化。さらに別の共同研究企業と情報発信機能の強化をし、高校生と協働した普及活動も行った等の成果発表をした。

(3) 研究成果等のポスター発表

温暖化対策担当、大気環境担当、自然環境担当、資源循環・廃棄物担当、化学物質・環境放射能担当、水環境担当、土壌・地下水・地盤担当の研究員及び彩の国環境大学修了生が、研究成果をポスター展示し、説明した。



特別講演



ポスター展示

3.4 環境情報の提供

(1) 気候変動適応センター

埼玉県では、平成30年12月の気候変動適応法施行に伴い、埼玉県環境科学国際センターを地域気候変動適応センター（埼玉県気候変動適応センター）に位置付けた。埼玉県気候変動適応センターでは、県内の気象情報や影響情報、適応策に関連する情報を収集・整理するとともに、新たに埼玉県気候変動適応センターのホームページ（SAI-PLAT）を立ち上げ、インターネットを通じた情報提供を行っている。さらに、気候変動適応サイエンスカフェなど様々な手段を通じた情報発信を行っている。

イベント

期 日	イベント名、テーマ	講師等	開催場所	参加者
2025.7.11	気候変動適応サイエンスカフェ 「身近な緑の役割と課題－災害現場で見えてきたこと－」	<スピーカー> 防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域 水・土砂防災研究部門 横山 仁 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 長谷川就一	オンライン	84 名
2025.9.3	第23回環境問題の現況と将来を展望するセミナー	<基調講演> 「国内外で近年発生した気象災害・酷暑と気候変動の影響～脱炭素は何のため？～」 東京大学 大気海洋研究所 気候システム研究系 准教授 今田由紀子 <取組報告> 「熱中症予防に向けた埼玉県の暑さ指数の実態と活用」 埼玉県気候変動適応センター 大和広明 「雨傘のシェアリングと日傘への展開」 (株)Nature Innovation Group 丸川照司 「暑さ対策としての人工芝やミストの技術開発の評価事例」 (一社)埼玉県環境検査研究協会 岸田直裕	さいたま市 オンライン	173 名
2025.12.4	気候変動適応サイエンスカフェ 「地球温暖化や海洋酸性化が海洋生物や地域社会に及ぼす影響とその対策～日本の海に起きている異変～」	<スピーカー> 東京大学 大気海洋研究所 大槌沿岸センター 教授 藤井賢彦 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 嶋田知英	オンライン	104 名
2026.3.13	気候変動適応サイエンスカフェ 「猛暑が変える、米づくりと酒づくり」	<スピーカー> SAKE ジャーナリスト 木村咲貴 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 河野なつ美	オンライン	98 名

(4 イベント、計 459 名)

(2) 生物多様性センター

埼玉県では、「埼玉県生物多様性保全戦略」を推進し、生物多様性の保全を進める関係者の連携・情報共有の拠点として、令和4年4月1日に、「埼玉県生物多様性センター」を環境科学国際センターに設置した。ここでは、地域

保全活動の支援をはじめ、生物多様性保全に関する情報収集・管理・発信、調査研究、教育・普及啓発などを行っている。埼玉県生物多様性センターのホームページでそれらの情報を提供しているほか、サイエンスカフェなどによる普及啓発活動も行っている。

イベント

期 日	イベント名、テーマ	講師等	開催場所	参加者
2025. 6.13	いきものサイエンスカフェ ¹⁾	「コウモリの声を聞いてみよう!」 ＜スピーカー＞ 環境科学国際センター 自然環境担当 牧 貴大	オンライン	70 名
2025. 6.14	県の蝶ミドリシジミを見る集い2025 ²⁾	秋ヶ瀬公園（ピクニックの森周辺）におけるミドリシジミの観察 ＜講師＞ 埼玉昆虫談話会会員	さいたま市	41 名
2025.11. 7	いきものサイエンスカフェ ¹⁾	「埼玉県のカエル・サンショウウオ・イモリ」 ＜スピーカー＞ 埼玉県立川の博物館 学芸員 藤田宏之	オンライン	61 名
2026. 3. 1	第12回いきものフォーラム ¹⁾ 「人口減少社会の野生動物管理」	＜基調講演＞ 「私たちは野生動物とどうつきあってきたのか？これまでとこれから」 東京農工大学 名誉教授 梶 光一 ＜事例発表＞ 「埼玉県の森林と野生動物の状況について」 埼玉県寄居林業事務所 森田 厚 「人と動物の境界線～生活圏の衝突～」 NPO法人crew-L 佐藤好則	さいたま市 オンライン	99 名

共同開催団体：(1)(特非)いろいろ生きものネット埼玉、(2)埼玉昆虫談話会

(4 イベント、計 271 名)

(3) 環境情報の海外への発信

ホームページに英語版、中国語版のパンフレットを掲載するとともに、英語版ホームページにより研究成果や研究員紹介などを掲載し、海外に向けた情報発信を行った。

(4) 共同研究サポート等

民間事業者や地域との連携を強化するため、次のとおり試験研究成果に関する情報を積極的に発信するとともに、民間事業者のニーズ等に関する情報を収集した。

- ・分析イノベーション交流会：令和8年2月12日～13日に東京大学で開催された分析イノベーション交流会に民間企業との共同研究の成果を出展した。

簡易キットや自動装置で精製、濃縮、誘導体化……………化学物質・環境放射能担当 専門研究員 竹峰秀祐

- ・令和7年度彩の国ビジネスアリーナ：令和7年11月18日～19日にさいたまスーパーアリーナで開催された彩の国ビジネスアリーナに標準ブース2小間で出展し、環境科学国際センターの概要や研究シーズを紹介した。出展内容は次のとおり。

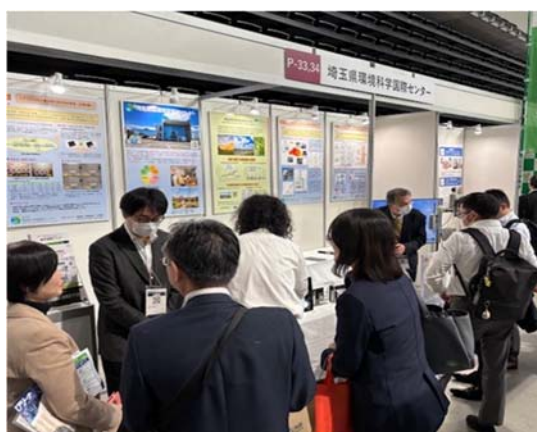
水害リスクを最小化する！都市防災における気象予測技術の開発……………温暖化対策担当 主任 河野なつ美
熱中症対策（適応策）のための暑さ指数のリアルタイム公表と暑さ指数計測装置の開発……………

……………温暖化対策担当 主任 大和広明

リチウムイオン電池等の回収実証事業～放電試験～……………資源循環・破棄物担当 担当部長 川崎幹生
川の生き物と水質の関係や川を守る行動を楽しく学べる教材、水生生物カードゲーム……………

……………水環境担当 担当部長 田中仁志

- 埼玉県における地中熱と太陽熱の複合利用……………土壌・地下水・地盤担当 主任研究員 濱元栄起
 埼玉県気候変動適応センター……………温暖化対策担当
 埼玉県生物多様性センター……………生物多様性保全担当
- ・民間企業等との共同研究：IoT暑さ指数計の開発と熱中症対策情報の発信、上空の大気計測方法、PFASsやダイオキシン等化学物質の分析手法、石綿の判別技術、低コスト型土壌対策技術、地中熱システム導入のための調査技術に関する民間企業との共同研究を9件実施した。
 - ・ぶぎんレポート（ぶぎん地域経済研究所発行）：ぶぎんレポート連載の「地域を守る環境研究の最前線」に、研究員等が執筆した8つの記事が掲載された（令和7年4月、5月、6月、7月、8・9月、10月、11月、12月各号）。
 - PFAS標準試薬用の高気密瓶開発……………土壌・地下水・地盤担当 主任 高沢麻里
 - 田植え時期から読み解く田んぼの生物多様性……………自然環境担当 主任 安野翔
 - ごみ埋立地の終活のための基準づくり……………資源循環・廃棄物担当 担当部長 長森正尚
 - ドローンを活用して上空の大気汚染解明に挑戦……………研究推進室 副室長 米持真一
 - どうすれば都市に迫る豪雨を予測できる？……………温暖化対策担当 主任 河野なつ美
 - 水の中の微生物は何をしているのか？……………水環境担当 主任研究員 渡邊圭司
 - ベトナムの建設廃棄物リサイクルに大きく貢献……………資源循環・廃棄物担当 主任研究員 磯部友護
 - 見えない魚を「水」から探るー環境DNA分析がひらく新しい生物調査……………水環境担当 担当部長 木持謙
 - ・埼玉県エコサポートガイドブック：事業者向けの県の環境支援策をまとめた「埼玉県エコサポートガイドブック」に、環境保全に関する共同研究等の支援事業として研究シーズ集第3版を紹介した。
 - ・埼玉県産業技術総合センターが行っている民間企業との生分解性プラスチックの開発について、試作サンプルの紫外線耐候性及び土壌中の生分解性を試験し、発生ガスと土壌の評価を行うことで、製品化に向けた支援を行った。



ビジネスアリーナ2025への出展



分析イノベーション交流会への出展

3.5 マスコミ報道

センターの試験研究、環境学習等に関して記者発表を行ったほか、取材等を受けた結果、以下のとおりマスコミによる報道があった。

（１）新聞報道、広報誌掲載

（22回）

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2025. 4. 5	毎日新聞	チチブイワザクラ自生確認 県最新レッドデータブック公表 武甲山で20年ぶり 「静かに見守って」	武甲山固有の希少植物「チチブイワザクラ」の自生が、約20年ぶりに確認されたことが、県が3月に公表した最新版のレッドデータブック（RDB）で明らかになった。RDBの編さんに当たった県環境科学国際センターは「チチブイワザクラに限らず希少種全般に言えることだが、静かに温かく見守ってほしい」と話している。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
2025. 4.20	読売新聞	リチウムイオン充電池 6 市町村回収せず 埼玉県は分別方法提示・再資源化へ	スマートフォンなどで使われるリチウムイオン電池について、埼玉県内 6 市町が家庭ごみとして回収を行っていないことが、読売新聞の調べでわかった。県環境科学国際センターでは、食塩水などに漬けることで電池を放電させる実験を実施した。
2025. 4.24	埼玉新聞(電子版)	埼玉南東部の地質地盤図公開 八潮の陥没現場は軟弱、産総研	産業技術総合研究所は24日、埼玉県南東部の地質構造を3次元で可視化する地質地盤図を公開した。1月に県道が陥没しトラックが転落した事故が起きた八潮市付近は泥層が目立つ中川低地にあり、深さ約30メートルまで極めて軟弱な地盤だと明らかになった。県環境科学国際センターと共同で1万地点以上のボーリング調査データを解析した。
2025. 4.24	上毛新聞(電子版)	埼玉県主要都市部の地下の軟弱層の分布を3次元で可視化	産業技術総合研究所は、県環境科学国際センターの協力のもと、1万地点以上に及ぶボーリング調査データの解析により、埼玉県南東部の地下数十メートルまでの地質構造を可視化した。その結果、低地の地下に、昔の谷を埋めるように分布する軟弱な沖積層の3次元分布形状を描き出すことができた。
2025. 4.25	埼玉新聞	県南東部の地層立体化 八潮、深さ30メートル「軟弱地盤」	産業技術総合研究所(産総研)は24日、埼玉県南東部の地質構造を3次元で可視化する地質地盤図を公開した。産総研は、県環境科学国際センターと共同で1万地点以上のボーリング調査データを解析した。その結果、荒川低地は泥層を主体としながら砂層をやや多く含む傾向があり、地盤強度が緩い地点が目立つことが判明。
2025. 4.25	東京新聞	八潮は極めて軟弱な地盤 産総研 県南東部3D地質図	産業技術総合研究所は24日、埼玉県南東部の地質構造を3次元で可視化する地質地盤図を公開した。県道陥没事故が起きた八潮市付近は泥層が目立つ中川低地にあり、深さ約30メートルまで極めて軟弱な地盤だと明らかになった。県環境科学国際センターと共同で1万地点以上のボーリング調査データを解析した。
2025. 4.27	埼玉新聞	彩の国は催し多彩 自然、グルメ、アウトドア…県内施設イベント情報	県内観光施設の1つとして県環境科学国際センターのGW特別企画の実施を報じる内容。
2025. 5. 9	毎日新聞	「千本桜も一本から」地元有志が「植樹祭」本庄で25日 虫害が爆発的拡大、危機憂い	本庄市で25日、地元有志による桜の苗木の植樹祭が開かれる。特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による被害の拡大で、市内から桜が失われゆく現状を憂えた市民が立ち上がった。県環境科学国際センターの調査では、県内の被害は37市町村に及び、北部から同心円状に南部へ広がっているという。
2025. 5.27	読売新聞	カミキリ被害 過去最悪 昨年度931か所 桜など樹木枯らす	桜などの木を枯らす昆虫「クビアカツヤカミキリ」による県内の被害が、2024年度は前年度より99か所多い931か所と、過去最悪を記録したことがわかった。県環境科学国際センターが18年度から被害状況をまとめ、公表している。同センターは、「フラスや成虫を見つけたら、写真を撮ってセンターに報告してほしい」と呼びかけている。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
2025. 5.28	東京新聞	クビアカツヤカミキリ被害拡大 さいたま、川口など8市町で初確認	サクラの木を枯らす特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の被害拡大が止まらない。県環境科学国際センターが23日に発表した2024年度の調査では、被害が確認された市町村は44に上り、前年度から8増えた。センターは被害防止の手引きをホームページで公表し、研究員による出前講座を開くなどして、駆除を呼び掛けている。
2025. 6.11	毎日新聞	クビアカツヤカミキリ被害拡大 24年度・樹木調査 36市町→44市町村に	県環境科学国際センターは、桜などバラ科の樹木に寄生して枯死させる特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による24年度の被害状況を発表した。さいたま市や川口市でも新たに確認され、被害が発生した自治体数は前年度の36市町から44市町村に拡大した。県環境科学国際センターは県民に「調査」を依頼し、状況の把握を続けている。
2025. 6.13	埼玉新聞	県内30カ所で「暑さ指数」風向き風速も 熱中症予防促進へ	県は、県気候変動適応センターのウェブサイト「SAI-PLAT」で、県内30カ所の「暑さ指数」の公開を始めた。指数は10分置きにリアルタイムで更新。期間は9月30日までの予定で、熱中症予防への活用を呼びかけている。
2025. 6.18	東京新聞	熱中症65歳女性死亡 各地で猛暑 109人が緊急搬送	県は17日、県内で女性（65）が熱中症により死亡したと発表した。県は暑さ指数に応じ、エアコン使用や外出自粛、水分補給などの対策を取るよう呼びかけている。暑さ指数は、県環境科学国際センターが県内30地点の値をリアルタイムで公開中。
2025. 6.20	朝日新聞	外来カミキリ広がる被害 昨年度44市町村 931カ所 新たに8市町	サクラやモモなどの樹木を食い荒らす特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の被害が、県内で増えている。県環境科学国際センターによると、昨年度は5市3町で新たに被害が確認され、44市町村の計931か所に広がった。
2025. 6.26	埼玉新聞	クビアカツヤカミキリの被害状況を調査開始 県環境科学国際センター	県環境科学国際センターは20日から「クビアカツヤカミキリ発見大調査2025」を開始した。クビアカツヤカミキリの被害は、24年度までに県内45市町村で確認されており、今年も被害拡大が懸念される。調査は誰でも参加可能。詳細は県の「クビアカツヤカミキリ情報」サイトへ。
2025. 6.27	読売新聞	カミキリ 情報提供求む	特定外来生物の昆虫「クビアカツヤカミキリ」について、県環境科学国際センターが目撃情報の提供を県民に呼びかけている。同センターが調査を始めた2018年度の被害は、県内の8市128か所だったが、24年度は44市町村931か所に広がった。同センターは「公園や学校などに植えられた桜に注目してほしい」としている。
2025. 6.29	朝日新聞	外来カミキリ 小学生ら捕獲 鴻巣で141匹 環境教育兼ね企画	県内で広がる特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の繁殖を防ごうと、鴻巣市で28日、小学生と保護者計50人が市主催の捕獲活動に参加した。県環境科学国際センターによると、この虫は桜や梅などのバラ科の木が好物で、日本に多くの桜の木があることが被害に拍車をかけているという。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2025. 9.27	埼玉新聞	環境科学国際センター展示館の命名権者募集 県が開始	新たな財源を確保し、安定的な施設運営や官民連携の取り組み拡大などにつなげようと、県は26日、県環境科学国際センター展示館のネーミングライツの公募を開始した。県環境政策課によるとネーミングライツの収益は、開設から25年がたち古くなった展示の入れ替えなど、施設の魅力向上での活用を見込む。
2025. 9.27	読売新聞	猛暑日49日 「最も暑い夏」 過去10年間で最多	県内で猛暑日が観測された日数は6～8月で計49日となり、過去10年間で最多。異常な暑さの要因について、県環境科学国際センターの大和広明研究員（気候学）は、太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しが強かったことを挙げる。「健康を守り、命を落とさないようエアコンを積極的に使ってほしい」と呼びかける。
2025.10. 3	埼玉新聞	害虫クビアカツヤカミキリ 被害拡大阻止へ対策共有 県、11月に連絡調整会議	県は11月に庁内の関係者による連絡調整会議を行うことが2日、開会中の9月定例会で明らかになった。会議では、各部署が持つ情報を横断的に集約し、環境科学国際センターによるアドバイスや、各部署で防除がうまくいった取り組みなどを共有する。
2026. 3.18	埼玉新聞	自然共生サイト569件に 埼玉2件、全国各地で認定	環境省は17日、企業や民間団体などが管理する希少な動植物の保全区域「自然共生サイト」に、加須市の「埼玉県環境科学国際センター生態園」や和光市にある「富澤湧水及び周辺自然環境」、仙台市の「仙台三高 時習の森」など33都道府県の84件を認定したと発表した。地域生物多様性増進法に基づく措置。
2026. 3.30	埼玉新聞	桜がピンチ 特定外来生物のクビアカツヤカミキリによる被害が深刻 県内全域に拡大も	春を象徴する花が近年、危機にひんしている。特定外来生物のクビアカツヤカミキリによる被害だ。県環境科学国際センターは18年度から、県民に参加を呼びかけて「クビアカツヤカミキリ発見大調査」を開始。三輪誠研究推進室副室長は、「25年度は集計中だが確実に広がっており、県内全市町村に達するかもしれない」と警戒する。

(2) テレビ放映、ラジオ放送

(8回)

放送日	局 名	番組名 (タイトル)	内 容
2025. 4.22	テレビ埼玉	知事記者会見	ゴールデンウィークに向けた観光情報
2025. 6.21	テレビ埼玉	いまドキッ！埼玉	埼玉県のクビアカツヤカミキリについて
2025. 7.12	テレビ埼玉	いまドキッ！埼玉	展示館及び夏休み特別企画の紹介
2025. 8. 9	テレビ埼玉	いまドキッ！埼玉	川の環境学習（「自由研究は川でバッチリ！川感動体験」）の紹介
2025. 8.31	フジテレビ	Mr. サンデー	鳩山町暑さの原因
2025. 9.16	テレビ朝日	プラチナファミリー & 火曜の良純孝太郎 合体SP	富士山頂での氷晶核研究
2026. 1.16	FM NACK5	「朝情報★埼玉」（あさ★たま）	センター講演会の紹介
2026. 2.12	FMわたらせ	「おかえり・わたらせ」	展示館、生態園、各種イベントの紹介 研究所、研究所公開の紹介 出前講座（2月20日実施）の紹介

(3) ミニコミ誌等

(7 回)

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
2025. 4. 1	広報かぞ4月号	KAZOフォト 2/22 楽しさが地域を つなぐ	「第1回つなぐ、つながるKAZOフェス2025」での県 環境科学国際センター研究員によるサイエンスショ ーの紹介。
2025. 4. 21	羽生・加須・行 田生活情報誌 『とねじん』	2025ゴールデンウィーク特別企画	2025ゴールデンウィーク特別企画及び県環境科学国 際センターの基本情報等の紹介。
2025.10. 1	かぞ市社協だ より10月号	第2回つなぐ つながる KAZOフェス開催しま す	県民の日に見て、体験して、味わえるイベントを行う ということの紹介。
2025.10.27	羽生・加須・行 田生活情報誌 『とねじん』	2025県民の日特別企画	2025県民の日特別企画及び県環境科学国際センター 展示館の基本情報等の紹介。
2025.11. 1	広報かぞ11月 号	特集 みんなでつくる こどもまんなか	QRコード掲載での動画による展示館「彩かんかん」 の紹介。
2025.11.10	Yahoo! JAPAN ニュース	【加須市】埼玉県環境 科学国際センターで 「県民の日特別企画」 開催：無料で見て・ふれ て・学べる特別な一日	11月14日に「県民の日特別企画」を開催することの 紹介。
2025.12.11	広報きたもと 12月号	今、北本の「サクラ」が 危ない	クビアカツヤカミキリからサクラを守るためにでき ること